



(写真) Globovision “大統領選後の騒動で逮捕された拘束者225名が解放される (写真 Tocarón 刑務所)”

2024年11月15日(金曜)

政治

- 「ベネズエラ・ロシア 緊急治療分野で協力」
- 「トランプ次期大統領 ベネズエラに関心なし」
- 「ルビオ国務長官の抜擢でラテンアメリカ重視？」

経済

- 「カラカスでベネズエラ・コロンビア商談会開催」
- 「モナガス州企業 過去10年で4000社減」
- 「Grupo Eveba 海産物の缶詰食品を輸出」

社会

- 「米 制裁回避した PDVSA 取引で懲役30カ月」
- 「スクレ州海岸で複数のイルカが死亡」

24年11月16-17日(土・日)

政治

- 「政府 大統領選後の拘束者225名を解放
～拘束していたスペイン人2名も解放～」
- 「政治犯解放を受けた野党関係者の反応」

「コロンビア Tren de Aragua ナンバー2逮捕」

経済

- 「ペトロ政権 Monmeros の買収を検討」
- 「炭酸飲料 2024年に違法販売が激減」
- 「来年のインフレ見通し 3つのシナリオ」

社会

- 「カラカスで寿司レストランのコンクール開催」

2024年11月15日（金曜）

政治

「ベネズエラ・ロシア 緊急治療分野で協力」

11月15日 ベネズエラとロシアは、緊急的な衛生対応で協力を強化することで合意した。

合意内容は、伝染病や感染症など緊急的に対処が必要とされる状況で、両国が研究協力を行うなどを想定しているという。緊急事態を想定した演習なども実施される。

11月7日 ロシアとベネズエラはハイレベル級会合を実施。金融・国防・航空・資源など多岐にわたる分野で協力合意を交わした。

ロシアは米国がマドゥロ政権に制裁を強化する中、マドゥロ政権を支援。

2020年、21年にはコロナ感染が拡大する中、Covid-19ワクチンを供給するなどしてベネズエラを支援した。

「トランプ次期大統領 ベネズエラに関心なし」

政治アナリスト Sergio Sánchez 氏は、「マドゥロ政権はカマラ・ハリス氏よりもダニエル・トランプ氏が大統領選に当選することを望んでいた」と指摘。

「マドゥロ大統領にとって、ハリス氏よりもトランプ氏の方が交渉を行いやすい人物」との見解を示した。

Sánchez 氏は、

「トランプ氏にとって、ラテンアメリカ地域の優先順位は低く、不法移民問題を解決するためにマドゥロと合意に至る可能性が十分にある」と指摘。

「トランプ氏は、メキシコとの国境を封鎖することを検討している」「メキシコからの不法移民流入を減らすのではなく、停止することを検討している」「同時にメキシコからの商品流入にも関税を課すことを検討している」「トランプ氏はベネズエラ問題の解決に関心は無く、彼にとってベネズエラは共産主義を批判する政治キャンペーンにおけるアクセサリーのような存在にすぎない」と指摘。

想定されるトランプ次期大統領の対応について、

「トランプ氏は、実効支配政権と実質的な合意を交わすが、マドゥロ大統領と合意は交わさないという折衷案で妥協するかもしれない」との見解を示した。

「ルビオ国務長官の抜擢でラテンアメリカ重視？」

トランプ氏は選挙キャンペーン中にラテンアメリカ地域の移民問題については度々触れていたものの、ベネズエラ問題についてはほぼ触れなかった。

そのため、次期トランプ政権がベネズエラ問題についてどのように対処するかは不透明であり、様々な考察がある。

前述の Sergio Sánchez 氏の分析のように、「トランプ氏にとって、ラテンアメリカ地域の優先順位は低い」と指摘する声もあるが、「マルコ・ルビオ議員が国務長官に抜擢されたことを受けて、ラテンアメリカの移民問題がトランプ政権の重要事項になる」との指摘もある。

「Americas Society」の Brian Winter 氏は、

「次期トランプ政権は、直近30年間の米国の外交政策の中でラテンアメリカを最も優先するだろう」「ルビオ氏は、ラテンアメリカ地域について“左派と右派”を“敵と味方”のイデオロギーで分けている」と指摘。

「Centro Estudios Estratégicos e Internacionales (CSIS)」の Henry Ziemer 氏も

「ルビオ次期国務長官は、これまで米国が見過ごしてきたラテンアメリカ地域の多くの問題に尽力することになる」と指摘している。

率直に言って、トランプ政権がベネズエラ問題をどのように扱うかについて、確証をもって言えるような材料が存在しないというのが現状だろう。

経済

「カラカスでベネズエラ・コロンビア商談会開催」

先週末にかけてカラカスにて、ベネズエラ製品の購入に関心のあるコロンビア企業との商談会を目的とした「ベネズエラ・コロンビア企業商談会」が開催された。

同商談会にはベネズエラ・コロンビア企業200社が参加。合計で1100万ドル相当の商談可能性が生まれたという。

「ベネズエラ・コロンビア経済統合商工会 (Cavecol)」の Luis Alberto Russián 代表は、

「コロンビア企業がベネズエラの商品の購入を検討できる今回のようなイベントは貴重だ」「今後もベネズエラとコロンビアの経済的なつながりが深化することを望んでいる」

とコメントした。

コロンビアにペトロ政権が発足し、ベネズエラとの関係が改善して以降、両国の取引額は増加傾向にある。

2024年1月～8月までの両国の貿易額は、前年同期比36%増の約7億ドル。両国は、2024年の年間貿易額を10億ドルにする目標を掲げている。

しかし、この貿易額の多くはコロンビアからベネズエラ向けの輸出で、ベネズエラからコロンビア向けの輸出は少ない。



(写真) El Universal

「モナガス州企業 過去10年で4000社減」

「ベネズエラ経団連 (Fedecamaras)」のモナガス州支部の Edgardo Berti 代表は、ラジオのインタビュー番組に出演。同州の企業の活動が低迷していると指摘した。

Edgardo Berti 代表によると、10年前はモナガス州で7000以上の企業が活動していたが、現在は2916社まで減少したという。つまり、直近10年で企業数が半分以上(4000社超減)に減ったことになる。

Berti 代表は、「活動を停止した企業も状況が許せば再開する可能性がある」と指摘。

これらの企業を再開させるためには、再開を促進するための税制的なインセンティブを講じる必要があるとの見解を示した。

「Grupo Eveba 海産物の缶詰食品を輸出」

ベネズエラの海産物輸出が増加傾向にあるが、ツナ缶やイワシ缶などを製造する缶詰食品メーカーも輸出を増やしている。

創業57年のベネズエラ食品メーカー「Grupo Eveba」は、現在ツナ缶、イワシ缶、ツナと野菜が入った缶詰など16種類の商品を外国に輸出しているという。

Evebaはベネズエラ国内に2つの工場があり、ベネズエラ国内および外国に輸出するだけの生産能力があるという。



(写真) Eveba

社 会

「米 制裁回避した PDVSA 取引で懲役30カ月」

米国裁判所は、制裁を回避しPDVSAと取引した罪でベネズエラ人 George Semerene Quintero氏（61歳）に懲役30カ月の判決を下した。

米国司法省の発表によると、Quintero氏は米国の制裁に抵触することを知りながら2019年1月～21年12月にかけてPDVSAに対して飛行機部品を輸出。

輸出に当たり、コスタリカの「Novax Group SA」、スペインの「Aerofalcon SL」など複数の販売先を経由し、最終購入者がPDVSAであることを隠していたという。

「スクレ州海岸で複数のイルカが死亡」

スクレ州 Bermúdez de Carúpano 市の海岸で複数のイルカが打ち上げられたという。

現時点ではイルカが打ち上げられた理由は不明。

スクレ州は漁業が盛んな州である。

Juan Reyes 環境社会主義相は、「他の海産物にも影響が生じている可能性がある」との理由からイルカが打ち上げられた理由について早急に調査すると発表した。



(写真) CTS News Sucre

2024年11月16日～17日（土曜・日曜）

政治

「政府 大統領選後の拘束者225名を解放
～拘束していたスペイン人2名も解放～」

11月16日 タレク・ウィリアム・サアブ検事総長は、大統領選後の騒動で拘束した野党支持者225名を解放したと発表した。

11月12日 マドゥロ大統領は、サアブ検事総長・最高裁に対して、「もし拘束の過程で何らかの誤りがあったとすれば、見直す必要がある」「認識を変えなければいけない事象があれば、再検討を要請する」と発言（「ベネズエラ・トゥデイ No.1141」）。

マドゥロ大統領の要請を受けて、サアブ検事総長は拘束者の解放に向けた検討を開始すると発表。

11月15日 検察庁は、225名の解放候補者リストを裁判所に提出し、このリストに準じて11月15日の夕方から解放が始まったという。



（写真）検察庁
“拘束者の解放を発表するサアブ検事総長”

サアブ検事総長は、「大統領選後の騒動で2400名を拘束した」と発表しており、225名の解放は全体の10%弱に当たる。

現時点でどのような人物が解放されたのか、詳細な情報は公表されていないが、記事を読む限り10代～20代の若年層を中心に解放された印象がある。

また、11月16日、スペイン領事館はスペイン系メディア「ABC」に対して、「マドゥロ政権が、拘束していたスペイン人2名（名前は明らかにされていない）を解放した」と伝えたという。



（写真）@oveprisiones

“親に同伴され、刑務所から出てきた未成年”

「政治犯解放を受けた野党関係者の反応」

今回の拘束者の解放について、野党のリーダーであるマリア・コリナ・マチャド氏（以下、MCM）は見解を表明。

「マドゥロ政権によって不当に拘束された政治犯は、回復不能な傷を負った」と指摘。これら政治犯について「恐ろしい戦いを続けた英雄」と称賛。

「ベネズエラ国内外で人権を擁護する団体の精力的な活動により政治犯の解放が達成された」との見解を示した。

また、マドゥロ政権との対話支持派の「第一正義党(PJ)」のエンリケ・カプリレス元ミランダ州知事は、「大統領選後に無実の罪で拘束されていたベネズエラの兄弟が解放されている」「無実の彼らは屈することなく戦いを続け、家族と再会した」「彼らは決して刑務所に入るべきではなく、全ての政治犯が解放されなければいけない」と主張した。

「コロンビア Tren de Aragua ナンバー 2 逮捕」

コロンビアのグスタボ・ペトロ大統領は、ベネズエラ系マフィア「Tren de Aragua」のナンバー 2 に当たる Jaison Alexander Lorca Salazar 氏（通称、Jaison Comino）を拘束したと発表した。

Salazar 氏はサンタンデール県 Los Santos 市に潜伏しているところを逮捕されたという。



（写真） Gustavo Petro 大統領 X

なお、Salazar 氏の所在に関する情報はベネズエラ検察庁からコロンビア当局に伝えられたものだったという。

サブ検事総長は、自身のインスタグラムアカウントにて Salazar 氏の拘束について触れ、コロンビア当局の迅速な対応に感謝を示した。

経 済

「ペトロ政権 Monómeros の買収を検討」

「ベネズエラ・トゥデイ No.1140」「No.1141」で紹介した通り、マドゥロ政権が「Monómeros」（ベネズエラの石油化学公社 Pequiven が株式 100% を保有するコロンビアにある肥料製造会社）の売却を検討しており、ペトロ政権は民間企業への Monómeros 売却に反対していると報じられている。

本件について、スペイン系メディア「El País」は、ペトロ政権がマドゥロ政権から Monómeros を購入する計画を検討していると報じた。

ただし、この検討を実現するためには多くの準備が必要だという。

マドゥロ政権が Monómeros の売却を検討している理由は、米国の大統領選でトランプ候補が当選したため。

2019年に、トランプ政権はグアイド暫定政権をベネズエラの正当な政府と認識。コロンビアにある Monómeros はグアイド暫定政権のコントロール下に入った。

2025年以降、トランプ新政権がゴンサレス候補をベネズエラ大統領と認識すれば、Monómeros は再び野党側のコントロール下に入る懸念がある。

それを回避するためにマドゥロ政権は Monómeros 売却を検討している。

つまり、2025年1月20日までに売却を完了させる可能性が高く、ペトロ政権が買収で合意に至るための猶予があるかどうかは不透明と言える。

「炭酸飲料 2024年に違法販売が激減」

「全国清涼飲料水連合会（Anber）」の Carlos Palumbo 代表は、2024年の同業界の状況について、1カ月で1220万本が消費されていると指摘。「23年よりも改善した」との見解を示した。

また、炭酸飲料について違法販売が横行していたが、2024年は対策に労力をかけたことで、違法販売が減少したと指摘。

Palumbo 代表によると、2023年は炭酸飲料の30%、特に西部地域では60%は違法販売だったという。

しかし、違法販売の対策を講じたことで、現在の炭酸飲料の違法販売はベネズエラ全土では0.28%、西部地域では0.64%と大きく改善したという。

清涼飲料水業界の状況は2023年よりも改善したものの、現在も工場の平均稼働率は40%と指摘。

「国内の生産能力を100%発揮することが出来れば、清涼飲料を外国から輸入する必要はない」との見解を示した。

「来年のインフレ見通し 3つのシナリオ」

現地経済調査会社「Ecoanalítica」は、2025年のインフレ率について、24年よりかなり高くなると予想。2024年のインフレ率は、前年比25.2%増。2025年のインフレ率は、同60.7%増になるとの見通しを示した。

Ecoanalítica のアスドゥルバル・オリベロス氏は、2025年のインフレ率は政治情勢に応じて3つのシナリオがあると指摘。

1つ目は、24年と同様。

オリベロス氏は、この可能性が最も高いと認識している。インフレ率は50%以下、GDP成長率は3%以下。経済成長率は業種により異なり、食品・技術・サービス・医療が高成長になりやすいとの見解を示した。

2つ目は、締め付け強化。

オリベロス氏は、この可能性について30%と認識している。GDPはマイナス成長になり、食品・医療など生活必需品に該当する業種のみプラス成長になるとの見方を示した。

3つ目は、ベネズエラの市場開放。

債務再編交渉が行われ、制裁が解除され、ベネズエラが国際社会に復帰するシナリオ。この可能性は5%と認識している。可能性は低いだが、実現すれば資源、製造、建設などあらゆる分野で大幅な成長が期待できるとの見解を示した。

社 会**「カラカスで寿司レストランのコンクール開催」**

11月15日～24日にかけてカラカスで「Sushi Fest Caracas 2024」が開催される。

同イベントのオーガナイザー Nervis Araujo 氏によると、出場レストランは「Sushi Market」「Sushi Delivery」「CocoThai」「Seiko Vip」「Hashi」「Kiko Sake」の6店舗。

3つの賞を決めるようで、1つ目は、審査員が決定。2つ目は、顧客の投票。3つ目は、売上額で決めるという。入賞者には500ドルとメダルが授与される。

同イベントは2023年から始まり、23年は「ハンバーガー」、25年は「ピザ」の予定だという。

以上